(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2017-132521
(P2017-132521A)
(43)公開日　平成29年8月3日(2017.8.3)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
B65D 47/36	(2006.01)	B65D	47/36	N	3E084
B65D 47/06	(2006.01)	B65D	47/06	U	
		B65D	47/06	Y	

審査請求 未請求　請求項の数 6　ＯＬ　（全 11 頁）

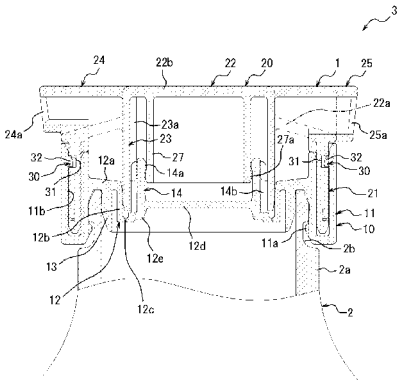
(21)出願番号　特願2016-15768(P2016-15768)
(22)出願日　平成28年1月29日(2016.1.29)

(71)出願人　000006909
株式会社吉野工業所
東京都江東区大島３丁目２番６号
(74)代理人　100147485
弁理士　杉村　憲司
(74)代理人　100154003
弁理士　片岡　憲一郎
(72)発明者　坂田　耕太
東京都江東区大島３丁目２番６号　株式会社吉野工業所内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】抜栓付き吐出キャップ

(57)【要約】
【課題】開栓作業を容易に行うことができるとともに開栓後における液漏れを容易に防止することができる抜栓付き吐出キャップを提供することである。
【解決手段】装着筒部１１と閉塞部１２とを備え、閉塞部１２にシール筒部１２ｂとシール筒部１２ｂに弱化線１２ｃを介して連なる抜栓部１２ｄとが一体に設けられた中栓部材１０と、吐出孔２４ａ、２５ａと円筒状の栓体部２３とを備え、組付け筒部２１において装着筒部１１に対して回転自在且つ上下動自在に組み付けられた吐出ヘッド２０と、吐出ヘッド２０が回転操作されたときに、装着筒部１１に対する組付け筒部２１の回転方向変位を軸方向変位に変換して、吐出ヘッド２０を、閉位置と開位置との間で上下方向に移動させる変位方向変換機構３０と、吐出ヘッド２０に設けられ、抜栓部１２ｄを吐出ヘッド２０に連結する連結片２７と、を有することを特徴とする抜栓付き吐出キャップ１。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
容器本体の口部に装着して用いられる抜栓付き吐出キャップであって、
前記口部に装着される装着筒部と、該装着筒部と一体に設けられて前記口部を閉塞する閉塞部とを備え、該閉塞部に円筒状のシール筒部と該シール筒部に弱化線を介して連なる抜栓部とが一体に設けられた中栓部材と、
側方に向けて開口する内容液の吐出孔と、前記シール筒部の内周面に液密に嵌合する円筒状の栓体部とを備え、前記装着筒部と同軸の円筒状に形成された組付け筒部において該装着筒部に対して回転自在且つ上下動自在に組み付けられた吐出ヘッドと、
前記吐出ヘッドが回転操作されたときに、前記装着筒部に対する前記組付け筒部の回転方向変位を前記装着筒部に対する前記組付け筒部の軸方向変位に変換して、該吐出ヘッドを、前記栓体部が前記シール筒部の内周面に液密に嵌合する閉位置と前記栓体部が前記シール筒部から離脱する開位置との間で上下方向に移動させる変位方向変換機構と、
前記吐出ヘッドに設けられ、前記抜栓部に一体に設けられた固定片に係合して該抜栓部を前記吐出ヘッドに連結する連結片と、を有することを特徴とする抜栓付き吐出キャップ。
【請求項２】
前記吐出ヘッドに、該吐出ヘッドの軸心を挟んで対向配置されるとともに開口面積が互いに相違する一対の前記吐出孔が設けられている、請求項１に記載の抜栓付き吐出キャップ。
【請求項３】
前記吐出ヘッドが前記組付け筒部の上端を閉塞する天壁部を備え、前記天壁部から突出する一対のノズル部が該天壁部の軸心を挟んで対向して設けられ、それぞれの前記ノズル部の先端に前記吐出孔が開口する、請求項２に記載の抜栓付き吐出キャップ。
【請求項４】
前記抜栓部が円形に形成され、前記固定片が前記抜栓部よりも小径の円筒状に形成されるとともに前記連結片が前記固定片よりも小径の円筒状に形成されて該固定片の内側に嵌合固定されている、請求項１～３の何れか１項に記載の抜栓付き吐出キャップ。
【請求項５】
前記栓体部の内周面に形成された被係止部が前記固定片の外周面に形成された係止部に係止されて前記抜栓部が前記吐出ヘッドに対して回り止めされている、請求項４に記載の抜栓付き吐出キャップ。
【請求項６】
前記変位方向変換機構が、前記装着筒部および前記組付け筒部の何れか一方に設けられた螺旋溝と、前記装着筒部および前記組付け筒部の何れか他方に設けられて前記螺旋溝に該螺旋溝に沿って移動自在に係合する係合突起とを有する、請求項１～５の何れか１項に記載の抜栓付き吐出キャップ。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、内容液を収容する容器本体の口部に装着して用いられる抜栓付き吐出キャップに関する。
【背景技術】
【０００２】
従来から、醤油やドレッシング等の調味液を内容液として収容する容器として、内容液を収容する容器本体の口部に、側方に向けて開口する吐出孔を備えた吐出キャップを装着した構成のものが知られている。例えば特許文献１には、容器本体の口部に、互いに軸心を挟んで対向配置されるとともに側方に向けて開口する一対の吐出孔を備えた吐出キャップを装着した構成を有し、何れかの吐出孔が下方を向くように容器本体を傾けることにより容器本体に収容された内容液を吐出孔から所望の量だけ外部に吐出させることができる

ようにした吐出容器が記載されている。
【０００３】
一方、流通時等において容器を密封状態に維持するために、吐出キャップを抜栓付きの構成としたものが知られている。例えば特許文献１に示す吐出容器では、吐出キャップを容器本体の口部に装着される中栓部材に吐出孔が設けられた吐出ヘッドを組み付けた構成とし、中栓部材に弱化線により区画されるとともにプルリングを一体に備えた抜栓部を設けることにより、流通時等においては容器を密封状態に維持しつつ使用時にはプルリングを引き上げることで中栓部材から抜栓部を除去して容器を開栓させることができるようにしている。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【特許文献１】特開２０１２－１３６２６７号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
しかしながら、上記従来の吐出キャップでは、容器を開栓するためには、中栓部材から吐出ヘッドを取り外して中栓部材を露出させ、その状態でプルリングを引き上げて抜栓部を除去してから、再度吐出ヘッドを中栓部材に装着する必要があり、その開栓作業が煩雑であるという問題点があった。
【０００６】
また、吐出孔が側方に向けて開口する吐出キャップでは、ヒンジキャップによって吐出孔を閉塞する構成とすることが困難であるため、開栓後に容器が横倒しになって液漏れを生じることを防止するための対策が採り難いという問題点もあった。
【０００７】
本発明は、このような課題に鑑みてなされたものであり、その目的は、開栓作業を容易に行うことができるとともに開栓後における液漏れを容易に防止することができる抜栓付き吐出キャップを提供することにある。
【課題を解決するための手段】
【０００８】
本発明の抜栓付き吐出キャップは、容器本体の口部に装着して用いられる抜栓付き吐出キャップであって、前記口部に装着される装着筒部と、該装着筒部と一体に設けられて前記口部を閉塞する閉塞部とを備え、該閉塞部に円筒状のシール筒部と該シール筒部に弱化線を介して連なる抜栓部とが一体に設けられた中栓部材と、側方に向けて開口する内容液の吐出孔と、前記シール筒部の内周面に液密に嵌合する円筒状の栓体部とを備え、前記装着筒部と同軸の円筒状に形成された組付け筒部において該装着筒部に対して回転自在且つ上下動自在に組み付けられた吐出ヘッドと、前記吐出ヘッドが回転操作されたときに、前記装着筒部に対する前記組付け筒部の回転方向変位を前記装着筒部に対する前記組付け筒部の軸方向変位に変換して、該吐出ヘッドを、前記栓体部が前記シール筒部の内周面に液密に嵌合する閉位置と前記栓体部が前記シール筒部から離脱する開位置との間で上下方向に移動させる変位方向変換機構と、前記吐出ヘッドに設けられ、前記抜栓部に一体に設けられた固定片に係合して該抜栓部を前記吐出ヘッドに連結する連結片と、を有することを特徴とする。
【０００９】
本発明の抜栓付き吐出キャップは、上記構成において、前記吐出ヘッドに、該吐出ヘッドの軸心を挟んで対向配置されるとともに開口面積が互いに相違する一対の前記吐出孔が設けられているのが好ましい。
【００１０】
本発明の抜栓付き吐出キャップは、上記構成において、前記吐出ヘッドが前記組付け筒部の上端を閉塞する天壁部を備え、前記天壁部から突出する一対のノズル部が該天壁部の

軸心を挟んで対向して設けられ、それぞれの前記ノズル部の先端に前記吐出孔が開口するのが好ましい。

【００１１】

本発明の抜栓付き吐出キャップは、上記構成において、前記抜栓部が円形に形成され、前記固定片が前記抜栓部よりも小径の円筒状に形成されるとともに前記連結片が前記固定片よりも小径の円筒状に形成されて該固定片の内側に嵌合固定されているのが好ましい。

【００１２】

本発明の抜栓付き吐出キャップは、上記構成において、前記栓体部の内周面に形成された被係止部が前記固定片の外周面に形成された係止部に係止されて前記抜栓部が前記吐出ヘッドに対して回り止めされているのが好ましい。

【００１３】

本発明の抜栓付き吐出キャップは、上記構成において、前記変位方向変換機構が、前記装着筒部および前記組付け筒部の何れか一方に設けられた螺旋溝と、前記装着筒部および前記組付け筒部の何れか他方に設けられて前記螺旋溝に該螺旋溝に沿って移動自在に係合する係合突起とを有するのが好ましい。

【発明の効果】

【００１４】

本発明によれば、開栓作業を容易に行うことができるとともに開栓後における液漏れを容易に防止することができる抜栓付き吐出キャップを提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【００１５】

【図１】本発明の一実施の形態である抜栓付き吐出キャップが用いられた吐出容器の断面図である。

【図２】（ａ）は図１に示す吐出容器の平面図であり、（ｂ）は同側面図である。

【図３】（ａ）は吐出ヘッドを開位置にまで移動させた状態の吐出容器の断面図であり、（ｂ）は同側面図である。

【図４】図３に示す状態の吐出容器から内容液を吐出する様子を示す断面図である。

【発明を実施するための形態】

【００１６】

以下、図面を参照して、本発明をより具体的に例示説明する。

【００１７】

図１に示す本発明の一実施の形態である抜栓付き吐出キャップ１は、容器本体２の円筒状の口部２ａに装着されて容器本体２とともに吐出容器３を構成するものである。図示する吐出容器３は、例えば醤油やドレッシング等の調味液を内容液として収容する用途に用いることができる。

【００１８】

容器本体２としては、例えばガラス瓶や合成樹脂製ボトルなど、内容液を収容する収容部（不図示）と当該収容部に連なる口部２ａとを有するものを用いることができる。なお、内容液を収容する収容部と当該収容部に連なる口部とを有するものであれば、容器本体２としてボトル形状以外の種々の形状ないし材質のものを用いることもできる。

【００１９】

抜栓付き吐出キャップ１は、中栓部材１０と吐出ヘッド２０とを備えている。

【００２０】

中栓部材１０は、例えば射出成形等によって一体成形された合成樹脂製となっており、口部２ａよりも大径の円筒状に形成された装着筒部１１と、装着筒部１１の内側に該装着筒部１１と一体に設けられて口部２ａの開口を閉塞する閉塞部１２とを備えている。

【００２１】

装着筒部１１の下端側における内周面には環状の爪部１１ａが一体に設けられており、この爪部１１ａが口部２ａの外周面に設けられた係止溝２ｂにアンダーカット係合することにより、装着筒部１１つまり中栓部材１０は口部２ａに抜け止めされた状態で装着され

ている。このように、中栓部材１０は打栓によって口部２ａに装着されている。なお、中栓部材１０は、打栓に替えてねじ結合によって口部２ａに装着する構成とすることもできる。

【００２２】

また、装着筒部１１には組付け溝１１ｂが設けられている。組付け溝１１ｂは装着筒部１１の周方向に沿って延びる円環状に形成され、装着筒部１１の上端に開口している。

【００２３】

閉塞部１２は、装着筒部１１の内周面に一体に連なるフランジ部１２ａと、フランジ部１２ａの内周端に一体に連なるとともに図中下方に向けて延びる円筒状のシール筒部１２ｂとを備えている。また、シール筒部１２ｂの外側にはフランジ部１２ａから垂下する嵌合筒部１３が一体に設けられており、この嵌合筒部１３が口部２ａの内周面に液密に嵌合することにより、中栓部材１０と口部２ａとの組合せ部分からの液漏れが防止されるようになっている。なお、シール筒部１２ｂと嵌合筒部１３は、それぞれ装着筒部１１と同軸に配置されている。

【００２４】

シール筒部１２ｂの内側には、このシール筒部１２ｂの下端側における内周面に弱化線１２ｃを介して一体に連なる抜栓部１２ｄが設けられている。弱化線１２ｃは、抜栓部１２ｄのシール筒部１２ｂの内周面との連接部分に当該内周面に沿って形成されている。これにより、抜栓部１２ｄの外形形状は、シール筒部１２ｂの内径よりも僅かに小径の円形に形成されている。抜栓部１２ｄは、円形の外周縁の内側に上方に向けて段差状に形成された段差部１２ｅを備えた形状に形成されており、シール筒部１２ｂの内側全面に広がり、シール筒部１２ｂの下端側の開口を塞いでいる。

【００２５】

弱化線１２ｃは、シール筒部１２ｂと抜栓部１２ｄとの連接部分の表面および裏面にシール筒部１２ｂの内周面に沿って延びる環状溝が形成されることにより、シール筒部１２ｂや抜栓部１２ｄよりも薄肉の膜状に形成され、抜栓部１２ｄがシール筒部１２ｂに対して上方に引き上げられたときに容易に破断することができるようになっている。

【００２６】

抜栓部１２ｄの上面には固定片１４が一体に設けられている。固定片１４は、シール筒部１２ｂと同軸であるとともに抜栓部１２ｄの外径よりも小径の円筒状に形成され、その上端部分における内周面には該内周面から径方向内側に突出する環状の係止用爪部１４ａが一体に設けられている。また、固定片１４の外周面には、その軸方向に沿って延びるリブ状に形成された複数の係止部１４ｂが周方向に間隔を空けて固定片１４と一体に設けられている。

【００２７】

吐出ヘッド２０は例えば射出成形等によって一体成形された合成樹脂製となっており、組付け筒部２１と組付け筒部２１の上端を閉塞する天壁部２２とを備えている。

【００２８】

組付け筒部２１は装着筒部１１と同軸の円筒状に形成され、装着筒部１１に設けられた組付け溝１１ｂに組み付けられている。組付け筒部２１の厚みは組付け溝１１ｂの溝幅よりも僅かに小さくなっており、これにより組付け筒部２１は組付け溝１１ｂの内部で組付け溝１１ｂに沿って装着筒部１１に対して軸心を中心とした回転方向および上下方向に移動自在となっている。このように、吐出ヘッド２０は、組付け筒部２１において、装着筒部１１ないし中栓部材１０に対して回転自在且つ上下動自在に組み付けられている。

【００２９】

図１および図２（ｂ）に示すように、天壁部２２は組付け筒部２１の上端に連なるテーパ状部２２ａとテーパ状部２２ａの内側に連なるとともにテーパ状部２２ａに対して上方に突出する有頂円筒状の突出部２２ｂとを備えている。

【００３０】

また、図１に示すように、突出部２２ｂの下端には栓体部２３が一体に設けられている

。栓体部２３はシール筒部１２ｂよりも小径且つシール筒部１２ｂと同軸の円筒状に形成され、シール筒部１２ｂの内周面に液密に嵌合して当該シール筒部１２ｂを閉塞している。なお、栓体部２３の下端は抜栓部１２ｄの段差部１２ｅの外周縁に近接して配置されている。これにより、栓体部２３と抜栓部１２ｄとの隙間を狭くして、内容液を吐出する際に栓体部２３の内側に内容液が入り込むことを抑制することができる。

【００３１】

図１および図２（ｂ）に示すように、吐出ヘッド２０には、天壁部２２の軸心を挟んで対向配置される一対のノズル部２４、２５が設けられている。これらのノズル部２４、２５は、それぞれ天壁部２２のテーパ状部２２ａから上方に突出するとともに基端側が突出部２２ｂの外周に連なり、先端が組付け筒部２１に対して径方向外側に突出する矩形筒状に形成されている。各ノズル部２４、２５の先端はそれぞれ吐出ヘッド２０の側方（吐出ヘッド２０の軸方向に対して、例えば９０度などの所定の角度を有する方向）に向けて開口する吐出孔２４ａ、２５ａとなっており、また各ノズル部２４、２５の基端側はその下面が切り欠かれて組付け筒部２１の内側に連通されている。このように、吐出ヘッド２０には、ノズル部２４、２５の先端に開口して当該吐出ヘッド２０の軸心を挟んで対向配置される一対の吐出孔２４ａ、２５ａが設けられている。

【００３２】

吐出孔２４ａの開口面積つまりノズル部２４の流路断面積は、吐出孔２５ａの開口面積つまりノズル部２５の流路断面積よりも小さくなっている。このように、一対の吐出孔２４ａ、２５ａの開口面積を互いに相違する構成としたことにより、吐出孔２４ａおよび吐出孔２５ａの何れか一方が下方を向くように吐出容器３を傾けて、その下方を向く吐出孔２４ａ、２５ａから内容液を吐出させることにより、内容液の吐出量を大小の２段階に選択的に切り替えることができる。なお、一方の吐出孔２４ａ、２５ａから内容液が吐出されているときには、他方の吐出孔２４ａ、２５ａは吐出ヘッド２０の内部に置換用の外気を取り入れる外気取り入れ孔として機能するので、吐出容器３の傾きに応じた所望の量の内容液を吐出させることができる。

【００３３】

天壁部２２には、ノズル部２４、２５に対して周方向に９０度ずれた位置に一対の操作用リブ２６が設けられている。吐出ヘッド２０を回転操作する際には、これらの操作用リブ２６およびノズル部２４、２５を、指を引っ掛ける指掛け部（滑り止め部）として用いることができるので、吐出ヘッド２０の回転操作をより容易に行うことができる。

【００３４】

図１に示すように、吐出ヘッド２０には、抜栓部１２ｄを吐出ヘッド２０に連結するための連結片２７が一体に設けられている。この連結片２７は、固定片１４よりも小径且つ固定片１４や嵌合筒部１３と同軸の円筒状に形成され、突出部２２ｂの頂部内面から垂下して嵌合筒部１３の内側に配置されている。連結片２７の下端部分における外周面には、該外周面から径方向外側に向けて突出する環状の係止用爪部２７ａが一体に設けられている。連結片２７は、固定片１４の内側に嵌合するとともに係止用爪部２７ａが固定片１４に設けられた係止用爪部１４ａにアンダーカット係合することにより固定片１４に嵌合固定されている。このような構成により、抜栓部１２ｄは吐出ヘッド２０に連結され、吐出ヘッド２０とともに上下方向に移動するようになっている。

【００３５】

本実施の形態では、吐出ヘッド２０に設けた円筒状の連結片２７を抜栓部１２ｄと一体に設けられた固定片１４に軸方向から嵌合固定させることで抜栓部１２ｄを吐出ヘッド２０に連結するようにしたので、吐出ヘッド２０を、その組付け筒部２１を組付け溝１１ｂに挿入するように中栓部材１０に対して軸方向から組み付ける（打栓する）だけで抜栓部１２ｄを吐出ヘッド２０に連結することができる。したがって、この抜栓付き吐出キャップ１の組み付け作業ないし構成を簡素化してコスト低減を図ることができる。

【００３６】

また、栓体部２３の内周面には、その軸方向に沿って延びるリブ状に形成された複数の

被係止部２３ａが周方向に間隔を空けて栓体部２３と一体に設けられている。これらの被係止部２３ａは、それぞれ固定片１４に設けられた複数の係止部１４ｂの間に配置され、係止部１４ｂによって周方向に係止されている。このように、栓体部２３の内周面に形成された被係止部２３ａが固定片１４の外周面に形成された係止部１４ｂに周方向に係止されることにより、抜栓部１２ｄは吐出ヘッド２０に対して回り止めされている。抜栓部１２ｄを吐出ヘッド２０に対して回り止めする構成としたことにより、後述するように吐出ヘッド２０を回転操作したときに、抜栓部１２ｄをシール筒部１２ｂに対してより小さな力で容易且つ確実にシール筒部１２ｂから除去することができる。

【００３７】

吐出ヘッド２０と中栓部材１０の相互間には変位方向変換機構３０が設けられている。吐出ヘッド２０が中栓部材１０に対して軸心を中心として回動するように回転操作されると、変位方向変換機構３０により、装着筒部１１に対する組付け筒部２１の回転方向変位が装着筒部１１に対する組付け筒部２１の軸方向変位に変換され、吐出ヘッド２０は、栓体部２３がシール筒部１２ｂの内周面に液密に嵌合する閉位置と栓体部２３がシール筒部１２ｂに対して上方に離脱する開位置との間で上下方向に移動する。

【００３８】

本実施の形態では、図１、図２に示すように、変位方向変換機構３０は、組付け筒部２１の外周面に設けられる一対の螺旋溝３１と、装着筒部１１の組付け溝１１ｂの外側の内壁に一体に設けられる一対の係合突起３２とで構成されている。図２（ｂ）に示すように、螺旋溝３１は、それぞれ組付け筒部２１の外周面の周方向の９０度の範囲に亘って該外周面に沿って螺旋状に延びて形成されており、互いに１８０度だけ位相をずらして配置されている。一対の係合突起３２は、それぞれ組付け溝１１ｂの外側の内壁から径方向内側に向けて突出する断面円形のボス状に形成されており、装着筒部１１の軸心を挟んだ対称位置に配置されている。一対の係合突起３２の外径は螺旋溝３１の溝幅よりも僅かに小さくなっており、それぞれ対応する螺旋溝３１に係合して当該螺旋溝３１に沿って相対移動自在となっている。

【００３９】

したがって、栓体部２３がシール筒部１２ｂの内周面に液密に嵌合する閉位置（図１に示す位置）にある吐出ヘッド２０を、中栓部材１０に対して軸心を中心として９０度回転させることにより、図３（ａ）、（ｂ）に示すように、吐出ヘッド２０を栓体部２３がシール筒部１２ｂに対して上方に離脱する開位置にまで上方に移動させることができる。反対に、開位置にある吐出ヘッド２０を中栓部材１０に対して軸心を中心として逆方向に９０度回転させることにより、吐出ヘッド２０を閉位置にまで移動させることができる。

【００４０】

なお、図２（ｂ）に示すように、吐出ヘッド２０が閉位置にあるときには係合突起３２は螺旋溝３１の上側のストローク端に位置し、図３（ｂ）に示すように、吐出ヘッド２０が開位置にあるときには、係合突起３２は螺旋溝３１の下側のストローク端に位置するようになっており、これにより吐出ヘッド２０の回転範囲が９０度の範囲に規定されている。また、螺旋溝３１の、雄出ヘッド２０の閉位置に対応する一方のストローク端には、係合突起３２を当該ストローク端に保持するための保持突起（保持リブ）３１ａが設けられている。このような構成により、吐出ヘッド２０が閉位置とされた未使用時には、係合突起３２が保持突起３１ａによって螺旋溝３１のストローク端に保持されることにより、吐出ヘッド2は閉位置から容易に回転しない状態となるので、不意に吐出ヘッド２０が開位置に向けて回転してしまうことを防止して、内容液の液漏れをより確実に防止することができる。

【００４１】

変位方向変換機構３０を、螺旋溝３１とこれに移動自在に係合する係合突起３２とで構成するようにしたので、この抜栓付き吐出キャップ１の構成を簡素化してコスト低減を図ることができる。

【００４２】

このような構成の抜栓付き吐出キャップ１が用いられた吐出容器３は、流通時等の未使用時においては、図１に示すように吐出ヘッド２０は閉位置とされ、中栓部材１０によって容器本体２の口部２ａが閉塞された密封状態に保持されている。

【００４３】

一方、吐出容器３の使用を開始する際には、吐出ヘッド２０を中栓部材１０に対して回転操作するだけの簡単な操作で当該吐出容器３を開栓することができる。つまり、図１に示すように閉位置にある吐出ヘッド２０を回転操作して図３に示す開位置にまで移動させると、連結片２７と固定片１４とによって吐出ヘッド２０に固定された抜栓部１２ｄが、吐出ヘッド２０とともにシール筒部１２ｂに対してその軸心を中心として捩じられながら上方に引き上げられる。これにより、弱化線１２ｃが破断して抜栓部１２ｄがシール筒部１２ｂつまり中栓部材１０から除去され、吐出ヘッド２０に保持された状態に移行する。中栓部材１０から抜栓部１２ｄが除去されると、中栓部材１０の抜栓部１２ｄが設けられていた部分に内容液の流通口１５が形成されて吐出容器３は開栓される。また、吐出ヘッド２０が開位置となると、嵌合筒部１３がシール筒部１２ｂから離脱するので、容器本体２の内部は中栓部材１０に形成された流通口１５を介して吐出ヘッド２０の内部に連通されることになる。したがって、この状態で吐出容器３を吐出孔２４ａが下方を向くように傾けることにより、図４に示すように、容器本体２に収容されている内容液を、中栓部材１０の流通口１５および吐出ヘッド２０の内部空間を通して吐出孔２４ａから外部に吐出させることができる。また、図示はしないが、吐出容器３を傾ける方向を１８０度反転させることにより、別の吐出孔２５ａから異なる吐出量で内容液を吐出させることができる。

【００４４】

このように、本発明の抜栓付き吐出キャップ１では、吐出ヘッド２０を閉位置から開位置にまで回転操作するだけの簡単な操作で、密封状態の吐出容器３を開栓し、内容液を吐出可能な状態とすることができる。また、このような構成を、中栓部材１０と吐出ヘッド２０の２部品で構成するようにしたので、抜栓付き吐出キャップ１の構成を簡素化して、そのコストを低減することができる。

【００４５】

内容液を吐出した後には、吐出ヘッド２０を逆方向に回転操作して開位置から閉位置に戻すことにより、栓体部２３をシール筒部１２ｂの内周面に嵌合させて中栓部材１０の流通口１５を閉じることができる。したがって、抜栓部１２ｄの開栓後に不意に吐出容器３が転倒する等して横倒し状態となっても、容器本体２に収容されている内容液を容器本体２の内部に保持して外部への内容液の漏れ出しを防止することができる。このように、吐出ヘッド２０を回転操作して閉位置に戻すだけの簡単な操作で、開栓後における液漏れを容易に防止することができる。

【００４６】

本発明は前記実施の形態に限定されるものではなく、その要旨を逸脱しない範囲で種々変更可能であることはいうまでもない。

【００４７】

例えば、前記実施の形態においては、吐出ヘッド２０には、その軸心を挟んで対向配置される一対の吐出孔２４ａ、２５ａが設けられているが、これに限らず、少なくとも１つの吐出孔が設けられていればその個数や配置は任意に変更可能である。

【００４８】

また、前記実施の形態においては、変位方向変換機構３０を、螺旋溝３１を組付け筒部２１の側に設け、係合突起３２を装着筒部１１の側に設けた構成としているが、これに限らず、螺旋溝３１を装着筒部１１の側に設け、係合突起３２を組付け筒部２１の側に設けた構成としてもよい。また、螺旋溝３１と係合突起３２は、それぞれ一対が設けられるに限らず、少なくとも１つずつ設けられていればよい。

【００４９】

さらに、前記実施の形態においては、組付け筒部２１を装着筒部１１に設けられた組付

け溝１１ｂに組み付けるようにしているが、これに限らず、組付け筒部２１を装着筒部１１の外周面側ないし内周面側に組み付けた構成とすることもできる。

【００５０】

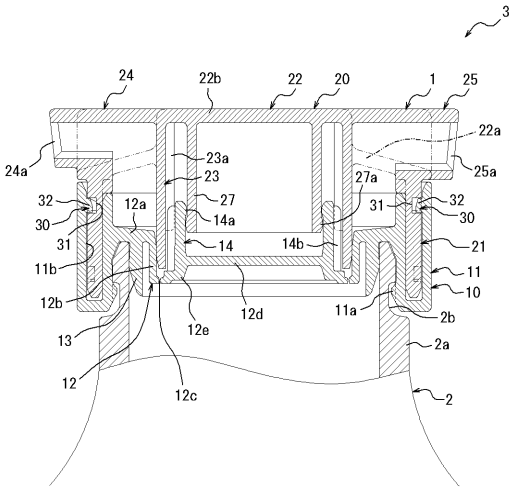
さらに、抜栓部１２ｄを吐出ヘッド２０に連結ないし固定する構成は、上記した固定片１４および連結片２７を用いた構成に限らず、種々の構成を採用することができる。

【符号の説明】

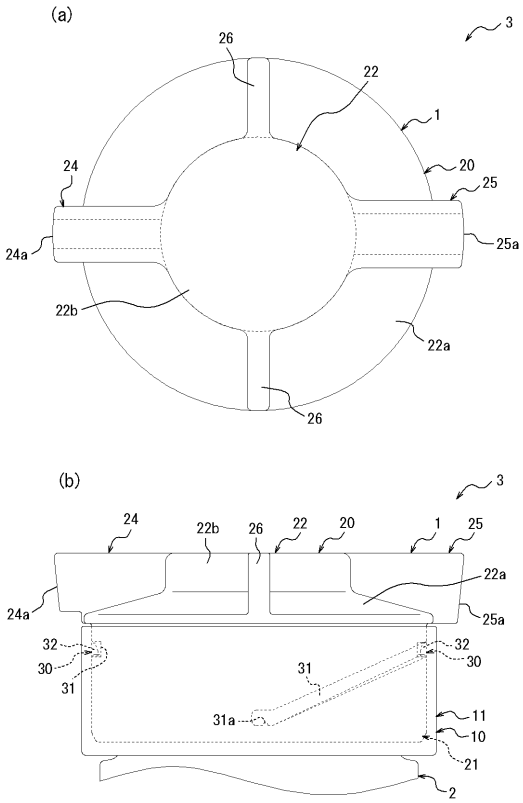
【００５１】

１　抜栓付き吐出キャップ
２　容器本体
２ａ　口部
２ｂ　係止溝
３　吐出容器
１０　中栓部材
１１　装着筒部
１１ａ　爪部
１１ｂ　組付け溝
１２　閉塞部
１２ａ　フランジ部
１２ｂ　シール筒部
１２ｃ　弱化線
１２ｄ　抜栓部
１２ｅ　段差部
１３　嵌合筒部
１４　固定片
１４ａ　係止用爪部
１４ｂ　係止部
２０　吐出ヘッド
２１　組付け筒部
２２　天壁部
２２ａ　テーパ状部
２２ｂ　突出部
２３　栓体部
２３ａ　被係止部
２４、２５　ノズル部
２４ａ、２５ａ　吐出孔
２６　操作用リブ
２７　連結片
２７ａ　係止用爪部
３０　変位方向変換機構
３１　螺旋溝
３１ａ　保持突起
３２　係合突起

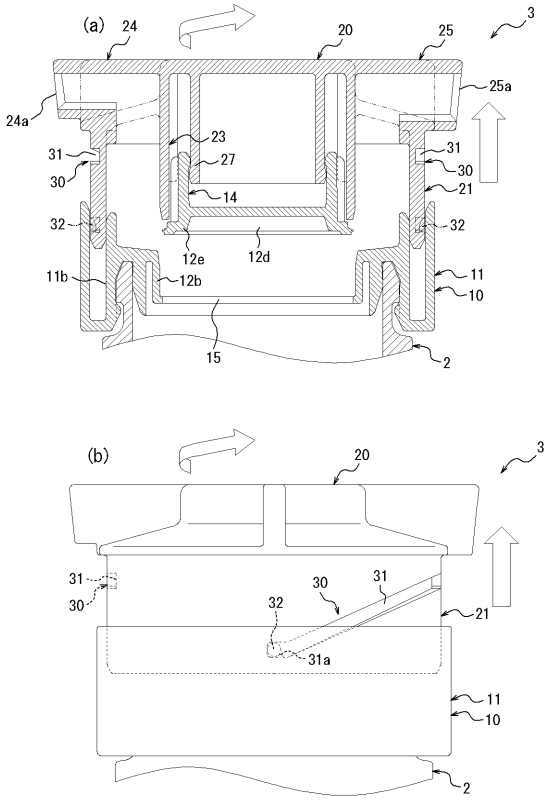
【図１】


3
24
22b
22
20
1
25
22a
24a
23a
23
25a
27a
32
12a
27
31
32
30
14a
30
31
14
14b
21
11b
11
12b
10
12d
11a
2b
13
12e
2a
12
12c
2

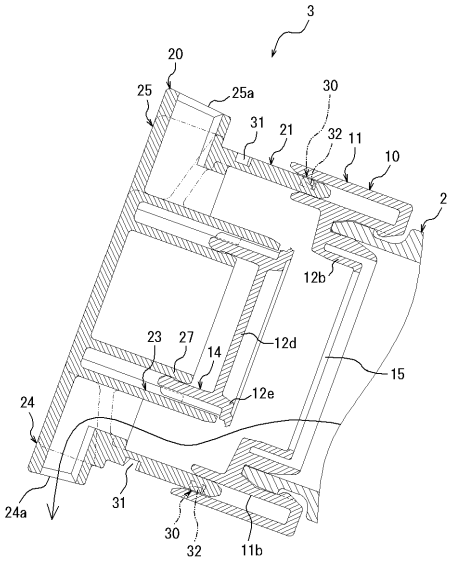
【図２】


(a)
3
26
22
1
24
20
25
24a
25a
22b
22a
26
(b)
3
24
22b
26
22
20
1
25
22a
24a
25a
32
32
30
30
31
31
31a
11
10
21
2

【図３】


(a)
24
20
25
3
25a
24a
23
31
31
27
30
30
21
14
32
32
12e
12d
11b
12b
11
10
15
2
(b)
20
3
31
30
31
32
21
31a
11
10
2

【図４】


3
20
25
25a
30
31
21
32
11
10
2
12b
23
27
14
12d
15
12e
24
24a
31
30
32
11b

フロントページの続き

Ｆターム(参考) 3E084 AA04 AA12 AA24 AA32 AB01 BA02 CA10 CC03 DA01 DB13
EA03 EB03 EC03 FA09 FC07 GA08 GB01 GB08 HB02 HC03
HD04 KA01 KA12 KB01 LA01 LA15 LA24 LB04 LB05 LC01
LD04